



探究を見学！授業実践「地理総合」

概要

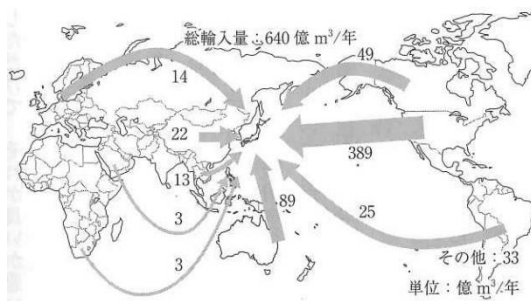
- 授業者：佐々木 智礼（地歴公民科）
- 日時・対象：令和5年11月29日（水）／1年生普通科
- 内容：「水問題について」

導入（5分）

- ・これまで学習してきた地球的課題について確認する。
- ・単元のまとめとして世界の水問題を学習することを確認する。
- ・「持続可能な開発目標（SDGs）」における位置づけを確認する。

展開（40分）

- ・世界の水問題の現状についてスライドを用いて説明する。
- ・水問題と関わりのある「持続可能な開発目標（SDGs）」を考えさせる。
- ・生徒の疑問に答えるもしくはこちらからの発問を通じて日本の水問題の現状について理解させる。
- ・仮想水の問題について説明する。
- ・世界の水問題に対する日本のあり方について考察する。



右図：「日本の仮想水輸入量」（沖大幹『水の未来—グローバルリスクと日本』岩波書店 2016年より引用）

まとめ（5分）

- ・グループごとに考察した内容を teams に投稿させ、全員で共有する。
- ・地球的課題が相互につながっていることをもう一度意識させて本時をまとめる。

●授業者が目指す授業、成果と展望、本時の感想など

地理の学習は現代社会に対する多様な見方を与えてくれるものだと思います。今回は「KOYO の力」のうち「Okosu」と「Yomu」に焦点を当て、どこか他人事のような水問題を自分事として考えていくための授業を計画しました。授業では、水問題の概要を説明したあとに「日本は世界の水問題とどのように関わっているか」という問いを提示し、小さな疑問や問いとそれに対する答えを積み重ねる



ことで、最後に「世界の水問題に対して日本はどうあるべきか」を考えてもらいました。問いを積み重ねることで生徒が「仮想水」の存在に気づき、日本のあり方について多面的に



考えるとところまで到達することができたのは大きな成果です。このような思考のサイクルを生徒が自力で回していくことが、地理総合の目標です。また、今回は情報共有の手段として teams を活用しました。指名されて発表するよりも気軽に発言でき、共有

にかかる時間も効率化することができました。